

新青丸研究航海報告

東京大学大気海洋研究所

- * 航海番号 KS-18-10 次研究航海
- * 観測海域 (和文) 三陸沖、常磐沖、房総沖、北西太平洋
 (英文) Off Sanriku, Off Joban, Off Boso, Northwest Pacific
- * 航海期間 平成 30 年 8 月 14 日 (火) ~平成 30 年 8 月 26 日 (日)
- * 出港日時・場所 8 月 14 日 14:00 時石巻港
- * 入港日時・場所 8 月 26 日 10:00 時 JAMSTEC 岸壁
- * 寄港期間・場所 なし
- * 航海の研究題目 (和文) 日本海溝沿いで発生する非地震性すべり過程の海底観測による検証 (震災対応)
 (英文) Seafloor observation of aseismic slip along the Japan Trench
- * 主席研究員 (氏名・所属・職名・e-mail アドレス)
 金松敏也・海洋研究開発機構・グループリーダー・toshiyak@jamstec.go.jp.
- * 研究内容, 主調査者 (e-mail アドレス), 観測項目
研究内容 1:地震発生後のプレート境界断層上での運動を理解する。特に周期的・自発的な「ゆっくりすべり」の実証に向けたデータの蓄積を図る。
主調査者:東 龍介 (ryosuke.azuma.c8@tohoku.ac.jp)
観測項目: 1) 海底間音響測距装置 (ADM)、海底地震計 (OBS) 群列・海底圧力計 (OBP) の回収、2) 三陸沖に ADM 観測網の展開 (OBP 設置)、3) GPS/音響結合式海底地殻変動 (GPS/A) 観測
研究内容 2:三陸沖で乱流堆積物採集を実施する。過去の断層すべりの痕跡からその履歴を明らかにすることを通して、巨大地震時のすべりの拡大を抑制する要因を明らかにする。
主調査者:金松敏也 (toshiyak@jamstec.go.jp)
観測項目: 1) ピストンコアリング、2) サブボトムプロファイリング

* 乗船研究者氏名・所属・職名

金松 敏也・海洋研究開発機構地震津波 R&D センター・グループリーダー

富田 史章・東北大学災害科学国際研究所・特別研究員

東 龍介・東北大学大学院理学研究科・助教

佐藤 真紀子・東北大学大学院理学研究科・技術補佐員

山本 龍典・東北大学大学院理学研究科・大学院生

大野 圭太郎・東北大学大学院理学研究科・大学院生

阿部 英二・東京大学地震研究所・技術専門職員

太田 和晃・京都大学防災研究所・特定研究員

大柳 修慧・京都大学防災研究所・大学院生

井上 智裕・京都大学防災研究所・大学院生

佐脇 泰典・京都大学防災研究所・大学院生

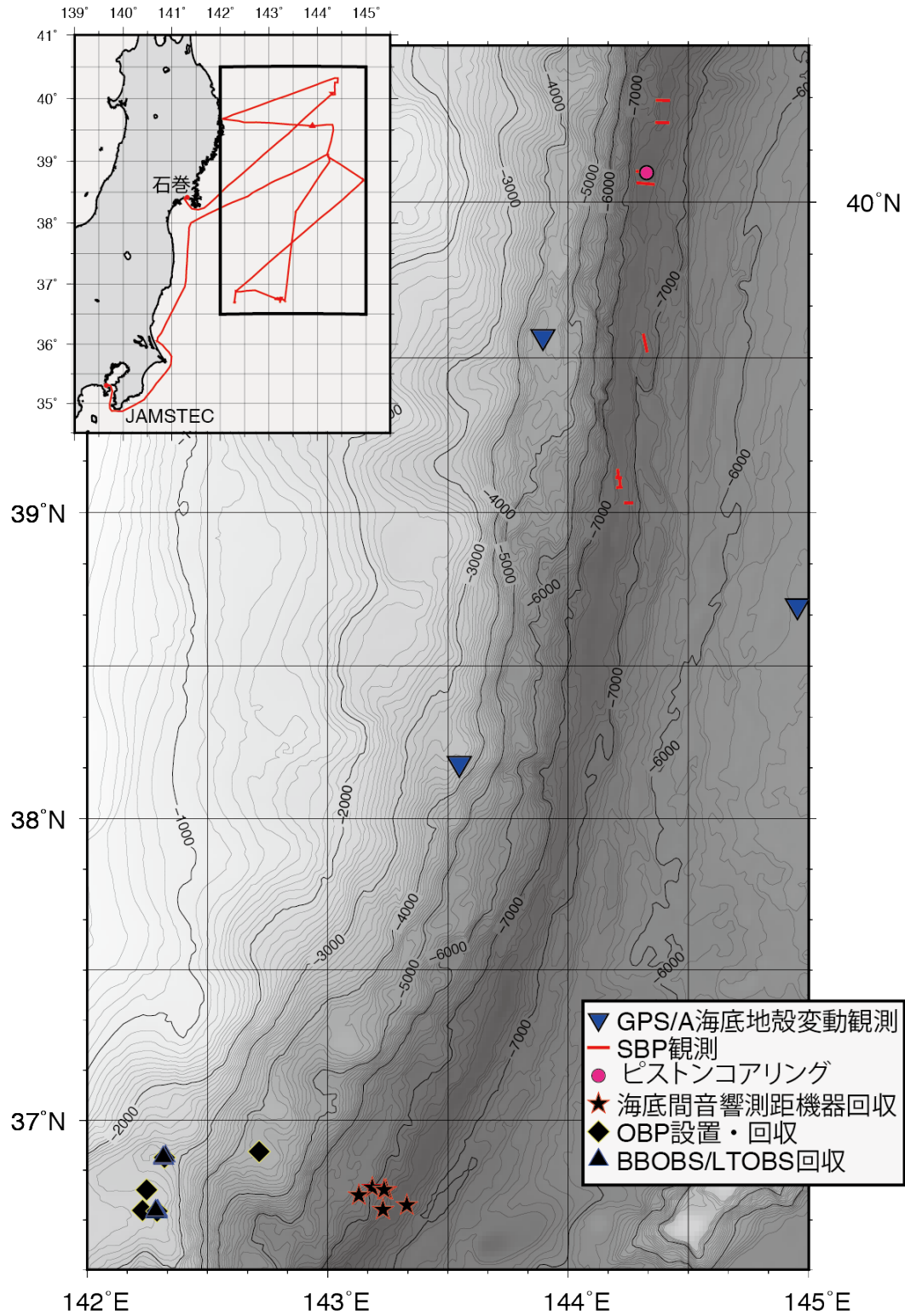
池原 研・産業技術総合研究所地質調査総合センター・首席研究員

喜岡 新・インスブルック大学・研究員

Tobias Schwesternmann・インスブルック大学・大学院生

佐藤 悠介・マリン・ワーク・ジャパン海洋地球科学部・観測技術員

* 航跡・測点図



- A) 赤線 : KS-18-10 の航跡図 (石巻—JAMSTEC)。黒線の範囲は B) に対応
 B) KS-18-10 で実施した、測点および測線の位置。